

検討テーマ5：全国規模の「水と緑のネットワーク」の理念・目的 現時点での基本的な認識と主な論点

- 1．新たな国土計画においては、今後も人工系のネットワークと自然系のネットワークの両者が国土にバランスよく共存する状態を目指すべきであり、国土の現況を踏まえると自然系のネットワークの保全・再生はさらに重要性が高まる課題であると考ええる。
- 2．すでに、「21世紀の国土のグランドデザイン」において、野生生物の生息・生育空間を確保するとの視点から「国土規模での生態系ネットワーク」の形成を提示しているところであるが、水と緑に代表される我が国の自然環境を体系的に保全・再生することは、野生生物の生息・生育空間の確保に止まらず、地球環境問題の改善、都市環境の改善、無秩序な市街地化の抑制、レクリエーション機能の増進、火災時の延焼防止等の防災性の強化、景観的な一体性・連続性の確保等様々な”機能”が期待し得るものと考ええる。
- 3．また、自然系のネットワークの構造としては、国土の脊梁山脈に沿う「背骨」と流域、沿岸域等を中心とする「肋骨」からなる構造を基本とし、奥山から里地・里山、田園、都市、海に至るもの、地球規模、全国規模、地域規模等様々な空間レベルで構成されるということを再認識することが必要である。
- 4．したがって、今後は、「国土規模での生態系ネットワーク」から更に進み、2で述べた様々な”機能”を付加した総合的な構想、すなわち「全国規模の『水と緑のネットワーク』」構想として展開すべきと考えるがどうか。
- 5．また、具体的に施策を推進するに当たっては、都市、農山漁村、自然維持地域等の地域内での各機能の構築や地域間のネットワーク構築の考え方が重要となってくるが、その際どのような考え方に基いて展開されるべきか。